団体表彰

NPO法人頴娃おこそ会

鹿児島県南九州市

観光振興から商店街活性化、移住者受け入れへ

―「跡継ぎのいるまち」づくり実現へ―

観光プロジェクトリーダー ● 加藤 潤

NPO法人頴娃（えい）おこそ会は「跡継ぎのいるまち」をつくることを目指し2005年に地元有志が立ち上げた団体で、2007年にNPO法人となった。設立から13年となる現在も活発な活動を続けており、観光や空き家再生などの地方創生事業の実施や、地域おこし協力隊の受け入れ先となるなど、行政との連携事業も多い。さまざまなプロジェクトを手掛ける中でも活発なのは観光プロジェクトで、おこそ会を通じた観光スポット開拓によって観光来訪者が増加。その後も観光と農業の連携や商店街の活性化、空き家再生、移住者受け入れなど観光の先を見据えた活動を展開している。

番所鼻公園での鐘の設置

石垣商店街での古民家再生

おこそ会集合写真

素通りのまちから観光来訪者15万人を迎えるまちへの変貌

鹿児島県南九州市頴娃町は、観光地として知られる指宿温泉や知覧武家屋敷から車で30分程度と近いものの、10年前までは頴娃を訪れる観光客はほとんどおらず、素通りのまちだった。2010年に埼玉からのIターン移住者が番所鼻公園でタツノオトシゴ観光養殖場を開設。この支援のためにおこそ会メンバーが手弁当で公園内にタツノオトシゴの鐘の設置に動いたことをきっかけに公園に賑わいがもたらされた。これに呼応するかたちで市役所と県庁が行政事業として番所鼻公園の整備に乗り出し、官民が連携した観光地化が進展した。その後、この流れは隣接する釜蓋神社にも波及し、朝市開催や観光ガイド、メディア発信などの地域主体の活動を行政が駐車場整備などで後押し、これまで町外からの観光来訪者が数えるほどだった頴娃町において、釜蓋神社で年間15万人、番所鼻公園で8万人が訪れる観光地へと成長した。

7軒の空き家再生とNPOを通じた移住者の活動支援

その後、おこそ会は観光と地域を繋ぐ活動に力を注いできた。茶畑に囲まれた大野岳では茶農家グループがおこそ会の支援を通じた観光連携活動に取り組み、茶農家が茶畑に来訪者を迎える観光対応が始まった。また海運時代に栄えたものの衰退が進む石垣商店街でも、まち歩きガイドやマップづくりが始まり、その一環として商店街の一角にあった築百年の空き店舗を無償で提供する家主が現れ、おこそ会はここを交流拠点として再生した。これを機に商店街への人の流れが生まれ、移住者が誕生し、彼らの住居や事務所確保などの必要から空き家再生が進んだ。おこそ会が手掛けた再生空き家は7軒に及び、視察や研修受け入れ、飲食、宿泊、事務所などに活用され始めた。

人の流れは新たな人の流れを呼び込み、昨今では移住者が始めた民宿や体験観光がビジネスとしても動き出したり、商店街で開催されたフリーランス養成講座に全国から受講生が集まったりと、創業にも繋がる活動展開が活発になっている。

観光起点の取り組みは、農業や商店街再生に発展し、移住者の受け入れに繋がった。今後はこうした移住者の活動が住民を刺激して、地域での取り組みが誘発される好循環を生み出すことで、おこそ会の理念である跡継ぎのいるまちづくりの実現にさらに近づきたい。